

VERAを 取り巻く人々

VERAは、研究者だけでなく、いろいろな人の思いに支えられています。そんな支援者の中から本田静さんと中村堅太郎さんに寄稿いただきました。



VERAがある街は、 選ばれし街

株式会社宙の駅 代表取締役
入来電波望遠鏡ファン倶楽部

会長 **本田 静さん**

VERAの魅力は何といてもあの佇まいです。威風堂々、白垂の巨大パラボラアンテナが時に素早く対象天体を捉え、時に息を潜めてじっと一点を見つめるように観測を行います。

そうかと思えば休憩中はお皿を真上に向けてのんびりと入来の大空を眺めています。遠い宇宙の果てから届くかすかな鼓動に耳を澄ませているVERAを見ると、自分の悩みがちっぽけであることに気付かされ、あるいは自分もまた星と同じ材料できているという安心感のようなものを感じさせてくれます。

VERAはとても複雑な計算の基に設計され、いろいろに吟味された結果、入来峠に設置されました。日本中に星空のきれい

な地域がある中で、ここ入来が選ばれたことにはとても特別な意味があります。

皆さんの薩摩川内市は宇宙から見て、天体観測や宇宙の謎を解くための最も適した土地で「選ばれた場所」であるということなのです。

今まで見えなかったものを照らしてくれるかがり火のように、そして私たち人類がどの方向へ進んでいけばいいのかを指し示す灯台のように、入来峠のてっぺんに立つVERAを、薩摩川内市の貴重なシンボルの一つとして多くの市民に知っていただき、宇宙への好奇心をくすぐる場所として、癒やしの場所として活用していただきたいと思っています。

VERAと地域振興

日本宇宙少年団 入来VERA分団
分団長 **中村 堅太郎さん**



私が最初にVERAに関わったのは、入来観測局の設立に合わせて立ち上がることになった宇宙少年団入来VERA分団の分団長としてでした。

もともと星が好きだった私に「分団長は、中村がいいんじゃないか」などの地域の皆さんのお声掛けなどをきっかけとして、就任する運びとなりました。

現在、宇宙少年団は休会中ではありますが、少年団以外にもVERAの施設公開と同時に毎年行われる「八重山高原星物語」の副実行委員長として、VERAとは今も関わり続けています。

もっとも、星物語も台風やコロナの影響でここ数年開催できていない状況ではありますが。

世界に誇る技術を持ったVERAは、入来だけでなく、薩摩川内市の宝、そして観光の目玉としてもこれからも必要だと考えています。

多くの人にVERAのことを認識してもらい、もっと多くの人にVERAを身近に感じてほしいと思っています。

また、当時、宇宙少年団として活動してくれた子どもたちや星物語に参加してくれた人たちが、天文学や星に興味を持ち、もしかしたらそういった分野の研究者などとして活躍してくれるんじゃないか、などと期待しながら私は、今日も空を見上げています。

VERAは次のステージへ



2003年から2022年までを期限として、天の川銀河（銀河系）の正確な3次元地図を作ることを目的に始まったVERA計画は、紆余曲折を経ながらも、無事に終了を迎えようとしています。前述したように、中川さんを中心とした鹿児島大学では、VERA計画の完遂に向けた新たなアイデアを盛り込んだ研究が、今も進んでいます。

今後VERA入来観測局は、国際的なVLBIの観測局として新しい時代を迎えます。お隣の韓国や中国、そしてこれからVLBIの研究が始まるタイの新しい電波望遠鏡などとともに、東アジア地域に大きく広がるネットワークの中で、国際的なVLBI観測を進めていきます。

VERAとともに

これまで、全国のVERA観測局では、星空観望会や夕涼みライブ、星空フォトコンテストなど、いろいろな企画が展開されてきました。

願い事
言うまで消えるな
流れ星
キジカケル



また、入来観測局でも、これまで「八重山高原星物語」として、県内の複数の大学や国立天文台、地区コミュニティ協議会などの協力の下、さまざまな科学実験や特産品の販売などの催しが提供され、夏祭りさながらの賑わいを見せてきました。中でもアンテナツアーと観測棟の見学は、年に1回しか見ることができないこともあり、子どもも大人も大興奮の一日となったほど。

現在では、コロナ禍において、なかなか大きなイベントは開催できない状況ではありますが、VERAは、市民の皆さんと身近に関わりながら一緒に成長してきたといっても過言ではないと思います。これからますます皆さんも、遠く宇宙へ思いをはせながら、時には、VERAのもとへ足を運び、VERAとともに空を見上げてほしいなと思います。



皆さんが知りたいことや紹介したいことなどがありましたら、情報をお寄せください。
問合せ／本庁広報室広聴
広報G（内線632）